

組織アレイ作製・組織染色および in situ ハイブリダイゼーション 受託サービス

in situ ハイブリダイゼーション (ISH) による遺伝子発現解析に関する一連の操作を行う受託サービスです。

- ※本サービスは研究用です。臨床用途には利用できません。
- ※本サービスの総代理店は松浪硝子工業株式会社です。

臓器・組織アレイ作製受託サービス

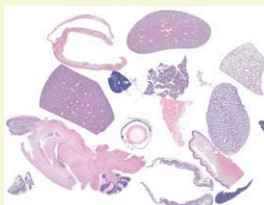
目的遺伝子の発現部位の解析に必要な動物種の臓器・組織アレイを作製いたします。また、お客様よりお送りいただいた組織試料からの組織アレイ作製も承ります。

従来ターゲットとしてきた mRNA に加えて、近年は miRNA、アンチセンス RNA 等の non-coding RNA (機能的 RNA) についても、これらの発現確認が、薬剤作用や遺伝形質等の解析には必須な実験項目となっています。

作製可能な動物種

- マウス
- メダカ
- ミニブタ
- モルモット
- ラット
- ゼブラフィッシュ
- ニワトリ
- イヌ

染色例



ヘマトキシリン/エオジン染色



in situ ハイブリダイゼーション
プローブ: protamin1 cRNA

マウス C57BL/6J 組織アレイを用いた例

スライド組織標本の特殊染色受託サービス

ワンギンソン染色やワイゲルト染色など 10 種類の手法での組織染色を承ります。

スライド標本全体組織画像の作製受託サービス

標本上の個々の区画を撮影した後、MIRAX (Zeiss 社) を用いて全体組織画像のバーチャルスライドを作製します。デジタル化された標本の画像は、ビューワソフトにより、モニター上で任意の位置を任意の倍率で観察できます。

遺伝子のアンチセンス RNA 発現検証受託サービス

組織において遺伝子のアンチセンス RNA の存在が ISH で示された場合、それを論文に記述する際に他の手法でのアンチセンス RNA の存在の確認を求められることがあります。このような要望に対応するため、株式会社つくば遺伝子研究所で開発したプロトコルによる RT-PCR 法で、アンチセンス RNA の存在を調べます。

ISH 用標識 cRNA プローブ (センス/アンチセンス)

遺伝子発現の確認に用いるプローブは、目的遺伝子からの転写産物のみを特異的に検出するものであることが必要です。最近の報告では、同一の遺伝子に由来するスプライシングバリエーションが存在し、スプライシングバリエーションの違いが形質に影響することも明らかにされつつあります。したがって、これらのスプライシングバリエーションも視野にいれた、ISH 用プローブが必要になります。

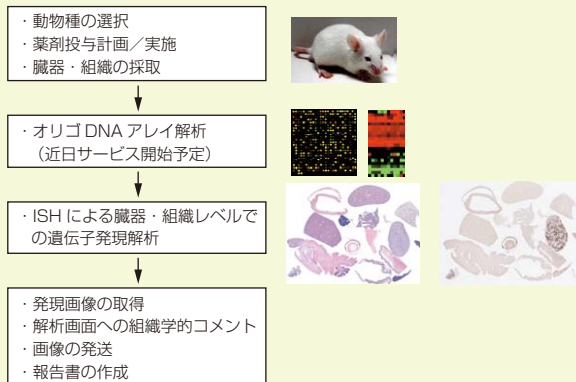
ISH 用プローブとして、スプライシングバリエーションを視野に入れた各種標識 cRNA プローブを取りそろえています。

ISH 受託サービス

ISH による遺伝子発現解析操作を行う受託サービスです。ISH による遺伝子発現解析を計画してから解析が順調に進み始めるまでには、平均して半年、中には 1 年以上もかかる場合もあるのが現状です。この期間を短縮し、計画から研究成果を得るまでの作業を円滑に進めるための支援もいたします。

※ ご要望に合わせたサービス内容の組み合わせも承りますので、まずはお気軽にお問い合わせ下さい。

作業内容



ご注文/価格

ご注文方法、お見積りなどの詳細は、受託・特注品業務担当 (欄外参照) までお問い合わせ下さい。